日本共産党
日立市議団ニュース
No. 32　　2004年5月20日
発　行　日本共産党日立市議団
連絡先　日本共産党北部地区委員会
日立市石名坂町1525-21/TEL(53)8501

小林真美子　(21)4919
大曽根勝正　(52)1570
ご相談はお気軽にどうぞ

第1回臨時議会　5/19
日立市・十王町合併、市税条例改悪の議案に反対討論

第1回日立市議会臨時議会が5月19日に開催され、日立市と十王町の合併を決める議案や、国の地方税制の改悪により個人市民税の均等割りの税率を年額３千円に値上げするなど、多くの市民が増税となる市税条例の改正の議案、補正予算などについて審議しました。

小林真美子市議は、十王町を廃して日立市に編入する議案について、「新市建設計画は１０年間という、国等の財政支援をうけている期間だけの計画であり、計画通りに合併特例債をつかって公共事業を次々と行えば、１５年以降に財政危機になる」などとして反対討論をしました。また、住民負担を増やす市税条例改正についても、「家計を圧迫するだけでなく地域経済に打撃を与える」として反対しました。すべての議案は可決となり、日立市と十王町の合併については、県議会で審議されます。

聴取には存続の立場で
～日本共産党日立市議団、市長に要請

日本共産党の大曽根勝正、小林真美子日立市議は１７日、樫村千秋市長に対し、２４日の国土交通省関東運輸局による日立電鉄線廃線問題での関係自治体の意見聴取について要請しました。

両議員は、多くの高校生、市民が存続を願い、茨城県の「試算」でも廃止よりも存続の方が地域にとっても利益がはるかに大きいと結論づけていることを指摘。「（代替バスの検討という）日立市の姿勢にきびしい批判の声がおきている」「存続の立場で意見聴取に臨むべきだ」と要請しました。

応対した根本茂助役は「そういう声を聞いている。市としてもどう選択するか苦慮している」と語り、要請内容を市長に伝えると答えました。
（しんぶん赤旗５／１８付より）

ー 「ちん電」守れ!!　広がる運動 ー
“電鉄線は命綱です”
署名待っていた。用紙追加して…

茨城県日立市と常陸太田市の住民でつくる「日立電鉄線を存続させる会」の国と県知事に存続支援を求める署名が反響をよんでいます。

同会は、電鉄線の利用者、沿線住民が「通勤・通学の足として地域を支え、環境にも優しい『ちん電』（電鉄線の通称）を存続させたい」と４月に結成。日本共産党の大曽根勝正、小林真美子日立市議、宇野隆子常陸太田市議も参加しています。

１６日には、小雨のなか電鉄線の久慈駅に近い県営アパート前で宣伝、署名をよびかけ、一時間ほどの取り組みで百二十三人分を集めました。

訪問した会員にお年寄りは「署名を待っていた。自動車を運転できない私らは、電鉄線に頼るしかない、命綱だ」と悲痛な声を寄せ、元電鉄社員で整備しをしていたという男性も「もうからないからというだけで廃線にするというのはけしからん」と賛同。

ある不動産業者は「駅裏で不動産を売りに出しているが、廃線されたら買い手がつかなくなる」と困惑の表情でペンをとりました。

午後の交流会では、日立市内のある職場から署名用紙が不足している、追加してほしいとの問い合わせがくるなど、市民のなかでの運動の広がりが報告されました。

同会代表の一人、元教師の五十嵐武夫さん（８２）は「ちん電は自宅の目の前を走り、朝晩は席に座れず多くの乗客がつり革につかまっている。廃線になったらこの乗客はどうなるのか、日立と常陸太田を結ぶ大事な鉄道を廃線させるわけにはいかない」と力をこめました。

３０日には「ふるさと線を守る全国実行員会」と「ちん電」に乗車しての交流会を計画しています。（しんぶん赤旗５／１８付より）

日本共産党北部地区委員会ホームページは http://www.jcp-net.jp/ibahokuです。
「日立市議団ニュース」のバックナンバーもご覧いただけます。
ご意見、ご感想をお寄せ下さい。